



EDF WAS AWARDED
"NGO OF THE YEAR 2012"

大切な支援者へお礼の手紙

2013年の中旬に皆様からお預かりしました奨学金のお陰で、多くの子どもたちが進学の機会を与えられ、途中退学を避けることができました。その子どもたちから、自分の生活の話や感謝の気持ちを支援者の皆様にお伝えたいと手紙を書きました。今回、その話をご紹介します。

尊敬する奨学金支援者の方へ

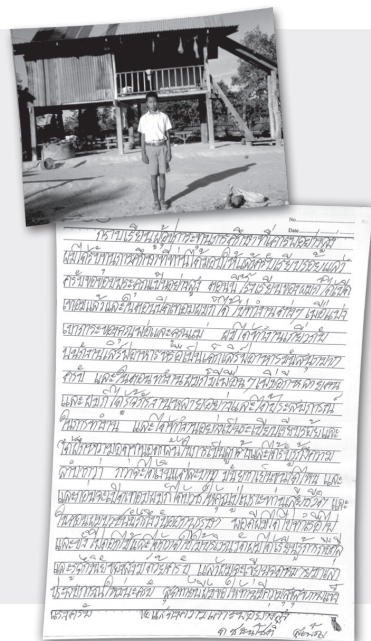
奨学金を確かに受け取りました。本当にありがとうございました。

今、学校では新しい学期が始まりました。休みの間は、両親の負担を軽くするために、いろいろな仕事をしました。レストランの給仕の仕事もしましたが、楽しかったです。働いている間に何人もの友人ができました。そしていろいろな仕事を覚えました。仕事上でたくさんの経験をしたことで、規律に従ってきちんと働くことを知ることができました。また、雇われる側の人間として忍耐力を養うこともできました。それから1パーツであっても、そのお金を給料としてもらうということが、どれほど大変なことかという困難さもよくわかりました。

学期が始まる前に、亡くなった祖父のために出家をしました。出家したのがちょうどオークパンサー(出安居)の時期でしたので、灯明船流しの祭りに行きました。出家の間、お寺周辺の枯葉の掃除をはじめ、僧侶の仕事をすることと僧侶の227条の戒律を学びました。それではまた、新しい出来事について手紙を書きます。

最後に、あなたが健康で幸せでありますようにお祈りします。

敬意をこめて。
タナチョート・スペン



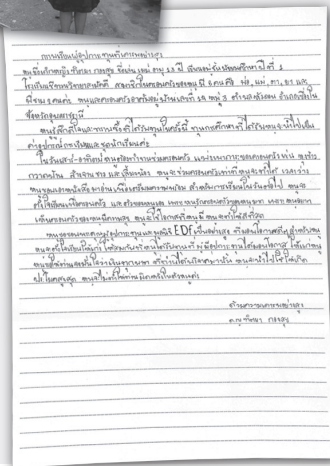
尊敬する奨学金支援者の方へ

私は、ティタヤー・コンスックと言います。ニックネームは、メーです。今13歳で、シートウン・ウィタヤー・サマッキー中学校の1年生です。私の家族は、私のほかに6人います。父、母、祖父、祖母、兄が2人です。私は今回奨学金をもらうことができ、嬉しくて本当に感動しました。いただいた奨学金で文房具や制服を買うつもりです。

週末の土日は、家族の負担を減らすため、私は家族を手伝って働かなければなりません。例えばご飯を炊いたり、家の掃除をしたり、お皿を洗ったり、小さい子の面倒を見たりします。私はできる限り、家族の手伝いをしようと思っています。時間がある時は、次の授業の予習をしますが、本を読むのが好きです。私は、家族と自分自身のために、一生懸命勉強します。なぜなら私は家族をとても愛しているし、家族の幸せな様子を見たいからです。だから、この機会を生かして、最良の結果が得られるようベストを尽くしたいと思います。

私は、この貴重な機会を与えてくださった奨学金支援者の方とEDFに心から感謝します。ありがとうございました。あなたからいただいた奨学金にふさわしい、賢い生徒になるよう一生懸命勉強します。奨学金に寄付なさったお金は、最も有益な使い方をします。決してあなたを失望させるようなことはしませんので、どうぞご安心してください。

敬意をこめて
ティタヤー・コンスック



今年度まだ大勢の恵まれない子どもたちが、上記の2人と同じように中学進学の奨学金を提供して下さる支援者を切望しています。今から2014年5月までにご寄付いただく奨学金は、2014年度中学1年生になる子どもたちに贈られます。皆様のご支援をお願い申し上げます。

元奨学生のその後

10年前ドナーから教育の機会を提供してもらったピニットさんは、その際のドナーさんの状況についてEDFに問い合わせてきました。過去与えてもらった教育の機会に感謝の気持ちを是非伝えたいということです。ピニットさんはEDF奨学生として経験を下記のように話しました。



1.2012年の卒業式
2,3.:中学生の時に家を訪問したドナーと撮った写真

「こんにちは。僕の名前はピニット・ミーマンです。」EDFの訪問団が私の母校を訪れたのは、私が中学2年生の時でした。緊張のあまり震える声で、私はイサーン(東北タイ)語の自己紹介をしました。日本からのお客さんを迎えて、ドキドキしていたのです。このEDF訪問団の来校は、私がEDFの奨学生として選ばれた後のことでした。当時の私は奨学金の給付が決まり、心から喜んだことを覚えています。

その時の私は、この奨学金が、経済的に恵まれない生徒に支給されるということしか知りませんでした。当時、私の家族は、大変貧しい生活を送っていました。というのも、母が障害者だったからです。主に農業で生計を立てていましたが、父1人で家計を支えなければなりません。私は家計を助けるために、学校の授業が終わると、魚を捕ったり森で野菜を探したりして、何とか食費を切り詰めようとしていました。つらかったのは、両親から、学校を休んで農作業を手伝ってほしいと言われたことでした。私は、勉強を続けることが本当に難しくなって、よく泣いたものです。

そんな中、2003年にEDFの訪問団が来校し、私はドナーにお目にかかる機会を得ました。ドナーとEDF訪問団は、わざわざ私の家に来てくれました。私は、中学2年生から高校3年生までの期間、ドナーから奨学金を援助してもらいました。この奨学金は、私の人生の転機となりました。奨学金は、勉強のために使ったほか、家計の助けともなりました。そして、この奨学金のおかげで、私は大学進学という進路をはっきり意識するようになりました。

私は、大学に進学するための方策を模索し、ついに大学入学試験に合格しました。ナコンラーチャシーマー県にあるスラナリ工科大学工学部の地質技術科石油プログラムで学び、2012年に無事卒業しました。現在、私は同大学大学院の修士課程、地質技術科に在籍し勉強を続けています。私の将来の夢は、ダムや鉱山そしてトンネル、あるいは、石油の探査や生産などのエネルギー関連の大きなプロジェクトに関わるチームの一員として働くことです。このような仕事を通して、国の発展のために貢献したいからです。

私には、もう一つ、いつも考えている夢があります。それは、いつか経済的に自立したら、私もドナーとなり、子どもたちに機会を与えたいということです。私がチャンスを与えてもらったように、私も子どもたちに人生を変えるような機会を提供したいのです。重要なのは、教育を受ける機会を子どもたちに与えるということです。

最後に、奨学生となっている皆さんに伝えたいことがあります。ドナーとなって下さっている方を忘れてはいけません。このような素晴らしい機会の恩恵を、すべての人が享受しているわけではないのです。奨学生の皆さん、たとえ苦しい人生であったとしても挑戦することを忘れずにいてください。そして、この授かった機会にふさわしい人物になるべく勉強に励んでください。奨学金という人生の転機を与えてもらった先輩からのメッセージです。

ニュース・イベント



PEPSICOがラヨン県でボランティア活動を実施

2013年11月14～15日、PepsiCo Services Asia Ltd.はラヨン県ニコム・サン・トンエン・5学校にて、『Helping Hand』ボランティア活動を行いました。同校の生徒たちは農業に関する様々な実習を通して多くのことを学びました。

JALが2年目の奨学金提供

2013年11月17日、日本航空株式会社(Japan Airlines Co., Ltd.)インドシナ・西南アジア地区代表バンコク支社長の北野 俊勝氏は、「JAL Mileage Bank Charity Golf 2014」キャンペーンにより集められた13,590パーツをご寄付いただきました。この寄付金は、ダルニー奨学金制度へ昨年に続き2年目の支援金です。



ダルニー奨学金が「和僑会」に参加

2013年11月22日～23日、アジア各地で事業を営む日本人起業家の集まり「和僑会」の第5回世界大会にダルニー奨学金が参加しました。当日は、参加者にダルニー奨学金の資料を配布し、グリーンティングカードを販売しました。「和僑会」の主催者のご配慮によりセミナーの会議室前のスペースに設定したディスプレイや案内書(小冊子)にダルニー奨学金の活動を紹介していただきました。



TMBがタイ深南部の子どもにご支援

2013年11月26日、「TMB/ING Park Run 2013」チャリティーミニマラソンによる収入の3,006,935バーツをご寄付いただきました。この寄付金は深南部の爆弾テロにより両親を亡くした子どもたちへ300口の奨学金にされます。



The Education for Development Foundation (EDF)
50, Kasetsart University Alumni Bldg., Phaholyothin Rd., Ladyao
Jatujak, Bangkok 10900
Tel. 0-2579-9209-11 (タイ語) 0-2942-8538 (日本語) Fax. 0-2940-5266
Email: public@edfthai.org URL: www.edfthai.org/jp

日本でのお問い合わせ: 一般財団法人 民際センター
〒162-0081 新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F
TEL: 03-6457-5782 FAX: 03-6457-5783
Email: info@minsai.org URL: www.minsai.org